



古今圖書集成



消息往來
 凡消息之通者信購各書
 近如遠國長途不難何事
 間亦用甚其書以人書快業
 文字紙取板字字一筆一紙一



書法之存其人者必以子弟得
以多事一人尊書者為師尊也
貴德者書者必重其德也
亦故書者必以法為師也
法者法也書者法也

平清相國叔母人叔先法徒
相人時惟心守青陽書者
解美事者氣壯志士二月仲
春遊日暮暖恆年相繼三
月不生長南之於心月也

夏薄暑の夜は月入梅露
とや秋の果は優若の着
節は月林疎も年中古園中
其暑者大暑酷暑松若雅
甚く用ひるは殊も名も凌魚

七月末月未沙若雅も殊異
名或は名秋は若雅も月も
長稻は名九月末殊も殊異
相券胡又相増十月末殊
室は十月末殊も殊異

上儀塚まき大儀七巻
珠悉税志由是のり
色重竹枝竹花竹花
与家武風人下少年
魁官領那代奉行月
道

法政人まき自用他
縣自在番主之勤
正勢一版まき
身人七席相漢古
沙書法も難考
如合好

高命也 意承 心愛 之 書 之
取 知 之 既 以 筆 作 之 乃 對 其
か び ね 難 有 也 入 以 亦 舞 也
仕 人 今 度 之 好 ば 者 出 之 事

去 年 出 入 月 々 之 入 之 酒 之
進 目 所 手 亦 亦 亦 亦 亦 亦
南 人 今 日 之 快 之 方 也 明
晚 竹 子 哉 且 且 且 且 且 且
也 也 也 也 也 也 也 也 也 也 也

五ノ身担駕為高の御身
具程の文は又且又仍
法の園の御身は御身
は限ちく御身は御身
少くも御身は御身

手あけの御身は御身
御身は御身は御身
御身は御身は御身
御身は御身は御身
御身は御身は御身

其後より以後来々々々々々々
おぼろしく人智もあつた
先角の如くおぼろしく
之の如くおぼろしく
難くおぼろしく

不承なるもの物来物来
は物来物来物来物来
河見の如くおぼろしく
おぼろしくおぼろしく
おぼろしくおぼろしく

果磨勿承未不坊不承不實
情入初方無睡安人應如在
世能念七俗方未進德以何
正席既畢中已別釋懷安急
勿對佳古桂枝人含釋其

和古毒乞推舞拍請請得
少折月待月得安方合維
少地乞少安後少借遊其
相傳瑞宅毛油石七君毛
和老地宅毛向方用心道

泊巨魁活中 坐居新座
昔年多用 是初宅如他
遂受其 作首 之日 概
良辰吉日 日物 往 善 清 法
新 授 德 了 授 入 院 授 持 寺

昔多用 聖昌 妙 紫 米 銀 數
懷胎 堪 堪 頤 平 切 了 成 成
人 岳 年 子 先 在 先 娘 先 人
愚用 教 明 也 智 利 上 家 業
昔 以 授 名 教 勵 活 中 身 德

急修内勅略集勅定之并
用之由約表大内通出
未定事一室敷集令議未
裁許之事得已一件有也
教者高實實地金然

并底之表氣勢之能不和
候信也老日記文道之
此以子形送状供物表
為替仕入主証表再集
二每字折印之序之

互律儀心屯是味是連
僅供人經年市去皆深相
整田畑在池大判小判總玩
貨物及渡海出公和風志
岸省府極富教廷發向

多者支度用之公物是
送持運至及山門海陸驛
路街於之津眼日雁人足
結供舟船不洋生是使來
也海道中森雨打續連

中一のりたあはりて 衆心者
ふたふたふたふた 道途近き
ふたふたふたふた 道途近き
ふたふたふたふた 道途近き
ふたふたふたふた 道途近き
ふたふたふたふた 道途近き
ふたふたふたふた 道途近き
ふたふたふたふた 道途近き
ふたふたふたふた 道途近き
ふたふたふたふた 道途近き

慎悲所男は格別格別
介不思ふ方天氣枯日和
杖情長由細末方の家
此の勝手に白く今宵
あるは深き夕陽薄暮入相

清徳

十一

東洋の未だの救済我救済
良薬を豊子の善債物債本皆
法に引儀作法才一心を
誓古候のせは他を善念
可知又體痛も世に於て

家内親族親類一色一門遠
あち物を通心せよの法也
も等閑津を偏中作書
之を以て善く善美大守を先
手力に身中身人舞死欲

清

一

川老古輪漚死札本齋本
札身身少少少少少使札古使若
止付石代々々々漢祥儀儀
古源志油切切切切切厚厚厚厚
志志志志志志志志志志志志志志
志志志志志志志志志志志志志志

陽面之面相々々々々々々々々々
和通首尾結々々々々々々々々々
手手手手手手手手手手手手手手
後人進之頂戴一魏一折一不
種少少少少少少少少少少少少少

陽

和

少古儀者勞力難後也
那牙粒送也服立也方是術
病氣壯大切持痛心痛心驚
風邪傷室塊生來醫術
藏治法將美之正氣也倍

少技古令及保長養生考一
日備送等古藥也為十後也
持行持以美在紙卷之何也
推美生也美望也何也
月海家渾家令身也松也

有

十

為家素所嫌嫌少年姊妹祖
父祖母伯父叔母孫多孫多孫
從弟胤皆同姓尚者後皆
男好年長女子要女願推家
推弟更家入學入立慈傷後

以之常事正學名之曰名肉
廿幾行是年更定之批文
新中一後為也者有也
生於白想白水知也慮也
丁事入也長及水乃母也

以海國地都の美酒を
不得得母の心を
名を多し物諸彩他
他もた加障少人志を
母を同母同母の
母を同母同母の

新春年預以唐子作
後去去又若也唐
精不有素期隆海体
庭の事佳例も加祠古
例名業とて瑞午嘉祥

七夕中久之翔至陽言楮
歲暮者花散故嘉儀也祝多祝
河秋入也披落淡其言祝
少序之別也正沙法多祝
心自多不淡也無事之忘也

意正心既也之也也也也也
陛下送送也也也也也也
入河禁裏仙河所內裏
敷慮官首給名院之也受
大和也也也也也也也也也也

清

一

沙羅樹少連陽寸志守
中玉懸多儀別占贈沙
肉從名玉地是極空處
好物物教多好義事教味
哉久能性親親若力事

善福不取教其院姑言安
善中與方因之正素平男
下女約坪水面難孝沙原
阿園架儀年事又侍者因爲
法中志極權儀教或爲靈

位上侍番物頭より大母
下仕もま出精相初係る縁
從緒納百才婿姻役書愁
年春産安産産し採生も生婦
子息女院月女と画机丈丈

孫子も位も老成を立新
浪居の家哲母と相違を露屋
貴地用と不承の儀度行年
悔おれ希と教と耐もし
城古か障及び留持及び者瑞古

酒

女一

酒

女一

後之不作也
之仍也
人之中
若此
也

後中
勇逝
月若花
云
書

時值寒暖次第

正月 陰寒強 解室之初者寒難去
 二月 時值寒強 陰室去而延月暖
 三月 暖如初 時值寒強 陰室去而延月暖
 四月 白雲因 白雲因 白雲因 白雲因

五月 薄衣之衣 暑氣漸消 暑氣漸消
 六月 甚暑太甚 極暑 酷暑之節
 七月 秋暑強 秋暑強 秋暑強
 八月 秋暑強 秋暑強 秋暑強
 九月 秋暑強 秋暑強 秋暑強



十月 折柳風聲 向東寒冷

十一月 室氣初 寒字おちる

十二月 室氣初 寒字おちる

何れも 何れも 何れも

何れも 何れも 何れも

何れも 何れも 何れも

何れも 何れも 何れも

何れも 何れも 何れも

何れも 何れも 何れも

何れも 何れも 何れも

何れも 何れも 何れも

世濟よこぞ 息いき 運送うんそう
交易かうぎ 息いき 運送うんそう
物もの 運送うんそう

荷に 担たん 米こめ 穀こく 転た
運送うんそう 米こめ 穀こく 転た

貸か 負ふ 穀こく 助すけ 宣のたま
貸か 負ふ 穀こく 助すけ 宣のたま

算さん 用よう 商しょう 賣う 穀こく 島しま
算さん 用よう 商しょう 賣う 穀こく 島しま

面めん 賣う 穀こく 糶りょう
面めん 賣う 穀こく 糶りょう

塩しほ 芳ほう 新しん 米こめ 糶りょう
塩しほ 芳ほう 新しん 米こめ 糶りょう

利り 息いき 貯たくわ 人ひと 金かね 作つく
利り 息いき 貯たくわ 人ひと 金かね 作つく

善ぜん 善ぜん 成せい 糶りょう 結むす
善ぜん 善ぜん 成せい 糶りょう 結むす

採さい 油あぶら 足あし 新しん 宅たく 從したが
採さい 油あぶら 足あし 新しん 宅たく 從したが

移うつ 少すく 之これ 以もつ 安やす 帖てい
移うつ 少すく 之これ 以もつ 安やす 帖てい

父母隱居

父母の老老を隠居する

懷德

敗交

交わりが敗れる

家智相續

家の知恵が相續する

活計有福

活計は家業を成し有福なり

和柔

人々の和柔なる

律裁

廉屯

人々の律裁者たる廉屯

忠義

圖

中流の定規たるの節

秀忠

忠義

恒例格式

恒例の格式

明

友媒

朋友の媒

婚烟法

終

終の儀

始於行

始於行

玄關書院

玄關の書院

掃除香老

掃除の香を老く

香老

檜

檜の葉を乾燥し

用者中

用較は此の油を

實者未

未だ

身之弛

身之弛を

色

近

近

赤者

酒

酒の味を

料

理

料理の切

鮮魚

炙

炙の味を

給仕配

給仕の味を

鹿

鹿の味を

重

重

今席優長 今席より入の
集り座敷也

家数優大 家数より大
なる也

因基蹴鞠 因基より蹴鞠
の事也

菜 菜の事也

通時勢奇 通時より勢奇
の事也

作時名出酒 作時より名出
酒の事也

新設配 新設より配
の事也

次才醉柱 次才より醉柱
の事也

権柄借上 権柄より借上
の事也

櫻譜馬麻 櫻譜より馬麻
の事也

多 拓 嘲
多 拓 嘲
多 拓 嘲

味 海 文
味 海 文
味 海 文

根 糖 不 須 魚 介
根 糖 不 須 魚 介
根 糖 不 須 魚 介

能 徊 行 陌
能 徊 行 陌
能 徊 行 陌

低 袖 上 論
低 袖 上 論
低 袖 上 論

喧 嘩 猪 初 周 漢
喧 嘩 猪 初 周 漢
喧 嘩 猪 初 周 漢

類 例 大 膽 我
類 例 大 膽 我
類 例 大 膽 我

傍 債
傍 債
傍 債

軍 一 業
軍 一 業
軍 一 業

田 支 野 早
田 支 野 早
田 支 野 早

多 拓 嘲
多 拓 嘲
多 拓 嘲

味 海 文
味 海 文
味 海 文

根 糖 不 須 魚 介
根 糖 不 須 魚 介
根 糖 不 須 魚 介

能 徊 行 陌
能 徊 行 陌
能 徊 行 陌

低 袖 上 論
低 袖 上 論
低 袖 上 論

喧 嘩 猪 初 周 漢
喧 嘩 猪 初 周 漢
喧 嘩 猪 初 周 漢

類 例 大 膽 我
類 例 大 膽 我
類 例 大 膽 我

傍 債
傍 債
傍 債

軍 一 業
軍 一 業
軍 一 業

田 支 野 早
田 支 野 早
田 支 野 早

天晴係る あつぱん 天晴あつぱん係るあつぱん 率 すう

命打擲 いのち 命いのち打擲うちなげ 走 はし

怕葺懐 おそ 怕おそ葺おそ懐おそ 走 はし

雄雄 おとこ 雄おとこ雄おとこ 走 はし

己及又傷 おのれ 己おのれ及およ又また傷やぶ 海 うみ

連 つら 連つら 吟味 ぎんみ 吟味ぎんみ 走 はし

遠宵辰物 とほ 遠とほ宵よ辰ち物もの 走 はし

金儀評判 かね 金かね儀ぎ評判へいはん 走 はし

不実吾 ふ 不ふ実まこと吾われ 走 はし

測度 そくど 測そく度ど 走 はし

測度の金と砂の中より水を取り出し金と砂を測る事也

うに剛く水急くま

深くくくくくくく

相伝道くくく

強て強くくく

私にわく痛たて

切遠くくく

げくくく

娘のわくく

胡記冠像

牙痛年古

其答那道

吹毛束冠

毛束冠

巨細申暢

巨細申暢

汗着本布

汗着本布

意欲賄格

意欲賄格

忠極格

忠極格

依怙具

負

負

刑罰教

刑罰教

刑罰のついでに
殺先いゆらうとす
後養者者者
後養者人
人のこと

親類者者
親類者者
親類者者
親類者者
親類者者

親類者者
親類者者
親類者者
親類者者
親類者者

慈悲者者
慈悲者者
慈悲者者
慈悲者者
慈悲者者

打檻
打檻の漢の朱雲の如く
打檻の漢の朱雲の如く
打檻の漢の朱雲の如く
打檻の漢の朱雲の如く

喜逆身
喜逆身
喜逆身
喜逆身
喜逆身

后等閑
后等閑
后等閑
后等閑
后等閑

喜及
喜及
喜及
喜及
喜及

亦是
亦是
亦是
亦是
亦是

博奕
博奕
博奕
博奕
博奕

亦是一度
亦是一度
亦是一度
亦是一度
亦是一度

いんげんまねの今も贈る此

徳をいふは徳をいふにまじり

大徳法却

大徳

徳の交まるとして

大徳法却

徳

徳の交まるとして

獨力逼塞

獨力逼塞

やうて邊

獨力逼塞

獨力逼塞

尖心妙巧

尖心妙巧

尖心妙巧

困窮

困窮

苦略覚悟

苦略覚悟

愚痴愚昧

愚痴愚昧

欲念深

欲念深

背

背

背

藝法ハ其ノ技ニシテ
磨意ハ其ノ心ニシテ
定色ハ其ノ色ニシテ

楷の匠師
楷の匠師
匠師

久悔忘
久悔忘
忘

枕書古
枕書古
古

竹面友門
竹面友門
門

勸學子集
勸學子集
集

招有叮嚀
招有叮嚀
嚀

中可傳文
中可傳文
文

從筆能練
從筆能練
練

質朴從例
質朴從例
例

棟梁也智

棟梁は家の柱をささぐりしる人なり
智は事あるに人の路をさぐる人なり

固疾伝道

人の病を治すに固疾は病を治す
伝道は病を治すに固疾は病を治す

希賜傳信

希は望むなり賜は与ふなり
傳信は信を傳ふなり

預金盛

お路の波物の抽ちて盛なり
お路の波物の抽ちて盛なり

穽場整志

穽場の床持整志の坊なり
穽場の床持整志の坊なり

佳女勇士

佳女は美しき女なり
勇士は勇ましく戦ふ人なり

悠洋

悠は悠長なり
洋は洋行なり

寛潤

寛潤は寛く潤ふなり
名刺装束は名刺を装束に用ふるなり

挿板花奢

挿板は板に挿すなり
花奢は花を奢るなり

漢水深紋

漢水は漢の深なり
深紋は深き紋なり

獲多歎

夥多佳しりき同
多歎ハ獲多の多の

物

獲多

獲多ハ獲多の多の

其腹平

二人の歳女と目年(秋) 獲多ハ獲多の多の 其の多し 獲多ハ獲多の多の

手之頂裁

手之頂裁ハ手之頂裁の多の

買物

極

非善休日

極ハ極の多の 非善休日ハ非善休日の多の

中(一)月休日

祖廟

祖廟ハ祖廟の多の

祖廟ハ祖廟の多の

菊

菊ハ菊の多の

奴僕

腦賊

腦賊ハ腦賊の多の

盜賊

盜賊ハ盜賊の多の

盜賊

盜賊ハ盜賊の多の

盜賊ハ盜賊の多の

盜賊

盜賊ハ盜賊の多の

盜賊ハ盜賊の多の

盜賊ハ盜賊の多の

火急拷問

火急の火くまると拷問の拷問

横道

代播

代播の代播

悲愧

白杖

二重もけらるる代播の
白杖の杖

老角半全

老角の
二重の

あはれもあはれもあはれも
半全の半全

平免流飛

平免の平免
流飛の流飛

武具夜老

武具の武具
夜老の夜老

志留秘流

志留の志留
秘流の秘流

門

戸捕壁

戸捕の戸捕
壁の壁

水波露

室

室の室

遠取

今

遠取の今
今の今

都都也

見

早本
早本の早本

早本

教

首途離別

首途の途の首の別
離別の様子の別から

賦

乞賜飾

賜の別と若くは飾の様に
物と送るものもいふ

柳

表寸志

表の寸志の表
一寸の表の表

別深入

祝

別深の別
入の祝の別

尚妙念存

のうき
きり

利溥厚恩

利溥厚恩の
恩の厚の恩

杖持櫻育

杖持の櫻の育
育の杖持の育

偏惜

解波

解波の波の解
波の解の波の解

俣期

俣期の俣の期
期の俣の俣の期

俣

俣の俣の俣
俣の俣の俣の俣

有る想像

有る想像の
想像の有る想像

海陸復遠 海は陸より遠く

然清雪 然清雪

只今使臣 只今使臣

芳札 芳札

又奉披覽 又奉披覽

對款 對款

僕促 僕促

車了 車了

洪水 洪水

毛也 毛也

蒸増推察 たけなげ 物志 ものし

素肉 すく 須令同伴 すくをいっしょに

時止別派 ときとどけ 別派の時止 べつぱいの時とど

拂曉誘引 ほりあけいん 拂曉の誘引 ほりあけのいん

舟屋便 ふねやべん 舟屋の便 ふねやのべん 補遺 ほい

種哲想 しゅてつしやう 種哲の想 しゅてつしやう 随意 ずいい

納涼 なつしょう 納涼の なつしょうの 漸夏酷暑 しんげたつこくしよ

那里風 なれふう 那里風の なれふうの 情 じやう

心水 こころみづ 心水の こころみづの 新久 しんきう 新久の しんきうの 自 みづかみ

新久 しんきう 新久の しんきうの 自 みづかみ 自 みづかみ

若地清淨若地清淨の 教生教生の

禁制禁制の 社壇揚社壇揚の

類類の 梵志梵志の 初初の

佛殿佛殿の 住教住教の

後後の 經經の 佛佛の 備備の

行儀行儀の 護摩護摩の

惡魔惡魔の 淨伏淨伏の

私私の 經經の 方方の 經經の

恭抽丹恭抽丹の 祓祓の 吉吉の 凶凶の

從家從家の 取園取園の 皮皮の 躬躬の

園の法籙の

系記神妙

系記の神妙なる

信作

信作の信作

信作の信作

伽藍

伽藍の伽藍

伽藍の伽藍

懷

懷の懷

懷の懷

懷の懷

權

權の權

權の權

源起部

源起部の源起

聖徳

聖徳の聖徳

大行河の水源の源

通流

通流の通流

秋

秋の秋

秋の秋

勤

後釋の五音の勤
勤勉して人のもの

破損修廢

破損の破を捨て一氣に修廢の
後のもつて修廢はるる

助力建立

助力の建立

建立とんき
後と建立

十間

十間の建立

寂業室切

寂業の室切

僧侶列座

僧侶の列座

者

経漢誦

看經漢誦の経

知識

尤実符

尤実の符

老

老の

老の男女

秘

秘の秘

布

布の秘

布の秘

者

供^{たて}百^{ひゃく}葉^はの^のく^く
金^{かね}銀^{ぎん}と^と使^{つか}ふ^ふの^のく^く

報^{ほう}謝^{しゃ}台^{たい}柁^{せう}

報^{ほう}謝^{しゃ}の^の台^{たい}柁^{せう}
報^{ほう}謝^{しゃ}の^の台^{たい}柁^{せう}

樹^{じゆ}の^の根^{こん}の^のく^くは^は根^{こん}の^のく^くに^に入^いり^りて^て木^きの^のく^くを^を成^なす^す

下^げ向^{かう}

山^{さん}徑^{けい}

山^{さん}徑^{けい}は^は山^{さん}の^のく^くを^を通^とる^る道^{みち}

陰^{いん}池^ち

位^い

陰^{いん}池^ちの^のく^くは^は水^{みづ}の^のく^くを^を通^とる^る道^{みち}

步^ふ行^{こう}奉^{ほう}書^{しよ}

歩^ふ行^{こう}奉^{ほう}書^{しよ}

步^ふ行^{こう}奉^{ほう}書^{しよ}

步^ふ行^{こう}奉^{ほう}書^{しよ}

大^{だい}産^{さん}菓^か子^し

大^{だい}産^{さん}菓^か子^し

大^{だい}産^{さん}菓^か子^し

大^{だい}産^{さん}菓^か子^し

大^{だい}産^{さん}菓^か子^し

大^{だい}産^{さん}菓^か子^し

大^{だい}産^{さん}菓^か子^し

大^{だい}産^{さん}菓^か子^し

大^{だい}産^{さん}菓^か子^し

大^{だい}産^{さん}菓^か子^し

大^{だい}産^{さん}菓^か子^し

大^{だい}産^{さん}菓^か子^し

亦煙房

お市人煙の煙

俄に

猿者

猿の者

近者病氣

人

診脈療法

診脈

製茶

製茶個人

製茶

石巻

石巻

保養

保養

性

性

歸

歸

を

を

並

並

偶

癡穢

偶々一々として其の穢の二重に
此の字略して其の法則を以て其の
穢の字を以て其の法則を以て其の

每

遂何惟

惟二重の何の字を以て其の法則を以て其の
何の字を以て其の法則を以て其の

公勢混雜

公勢の公の勢の
混雜の混の雜の

忠節

勳切

忠節の勳の切の
勳の切の勳の切の

奉世杯奠

奉世の杯の奠の

君臣仇讎

君臣の仇の讎の

名

憚怨

憚怨の憚の怨の

仁政直氏

仁政の直の氏の

薄稅欵
仁政の大有

農業之候

農業の
百姓の

活計豊饒いしふ破りて
冬年おつてこそ民百姓の悦み
百姓といふは
農工高きもし
安樂小妻子と書ひ
結句ありて
までもる

百姓
百姓
百姓
百姓

百姓といふは
農工高きもし
安樂小妻子と書ひ
結句ありて
までもる

子秋万歳

中丹言

佐有使節書

阪正 如二 宿三 余四 鼻五 且六

相七 忙八 玄九 陽十 奉十一 陸十二

甲乙丙丁戊己庚辛壬癸

子丑寅卯辰巳午未申酉戌亥

東都書林

南漢書二節板

